

各 位

会 社 名：ウインテスト株式会社
(コード：6721 東証スタンダード)
代表者名：代表取締役 姜 輝
問合せ先：経営企画室長 鎌田 文明
(T E L : 045-317-7888)

次世代ディスプレイ・ドライバIC検査装置「WTS-9000」 並びに「WTS-588D」のリリースと販売開始のお知らせ

この度、ウインテスト株式会社（横浜市西区）は、次世代ディスプレイ・ドライバIC検査装置WTS-9000並びにWTS-588Dのリリースと販売開始を行うことを決定いたしました。WTS-9000は、ディスプレイ・ドライバIC向けハイエンド・多チャンネルの検査装置となり、WTS-577SXの上位機種となります。また、WTS-588Dは、開発部門に最適化したデバイス研究開発用デスクトップ型の検査装置となります。なお、WTS-588Dについては、2024年12月11日から「東京ビッグサイト（東京国際展示場）」にて3日間に渡り開催される半導体業界最大の展示会、セミコン2024に実機展示いたします。出展するブース番号は「東第7ホール・ブース番号：7531」となります。

1. 「ディスプレイ・ドライバIC」について

ディスプレイ・ドライバICは、スマートフォン、タブレット、パソコンのディスプレイやテレビの画面に搭載されており、ディスプレイに画像を表示するのに重要な役割を持ったICです。また、近年では、タッチパネルのセンサー機能を併せ持つICも台頭してきています。ディスプレイには大きく分けてLCDパネルと有機ELパネルがありますが、WTS-9000はその両方のICを同時に複数個を高速に検査することができます。

2. WTS-9000の特徴

検査スピード、検査効率の最大化を追求し、I/O信号の駆動スピードは、1.6ギガビットパーセカンド（ギガは10の9乗で、1ギガは10億となる）で、最大1024ピンを搭載し、また、グレースケールデータの読み込みスピードと読み精度に大幅な改良を加え、デジタイザは最大ピン数を3584ピン搭載し、同時測定IC個数最大32個を実現しました。さらに、テレビ用ディスプレイ・ドライバICを測定するため、4.5ギガビットパーセカンドの超高速Driverを搭載しました。

WTS-9000の持つユーザ・インターフェース（GUIと呼ばれる）は、量産におけるシステムの操作、IC検査用プログラムのプログラミングや編集において使いやすさを追求し、お客様にとって非常に使いやすいGUIを搭載しました。半導体検査プログラムの開発者、そして量産現場において、さらに使いやすいデバッグ機能を追加することで、よりユーザフレンドリーで使いやすさを向上させました。

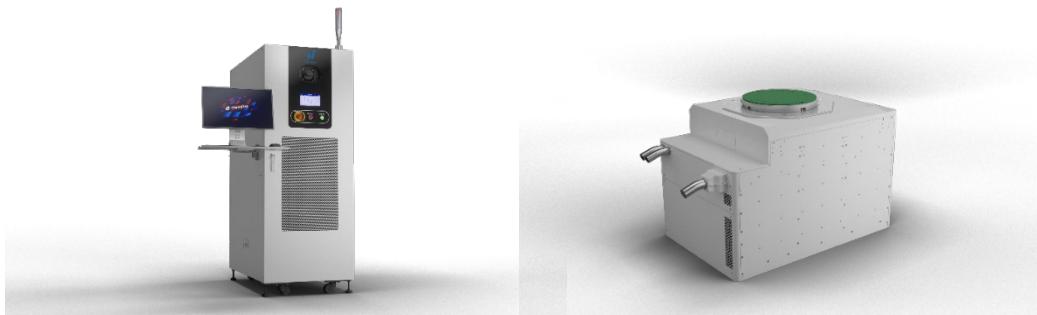
3. 業績に与える影響について

今期通期業績への影響は、特にございませんが、来期以降の業績への影響について、現在精査中です。明確になり次第お知らせいたします。

※本ニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報であり、諸般の事情により予告なく変更されることがあります。

以上

WTS-9000のご紹介



検査装置本体 テストヘッド 次世代ディスプレイ・ドライバIC検査装置 WTS-9000

主要諸元：

I/O Board 1. 6Gbps、MAX 1024ch

LCD Board MAX 3584ch, 20bit Measure ADC and 16bit Force DAC

超高速Driver 4.5Gbps、32Pair

最大同時測定数 32個

消費電力 14KW 水冷により高い安定度を実現

WTS-588Dのご紹介



デスクトップ型研究開発用 次世代ディスプレイ・ドライバIC検査装置 WTS-588D

主要諸元：

I/O Board 1. 6Gbps、128Pin

LCD Board 256pin, 18bit Measure ADC and 16bit Force DAC

デバイスパワー 24ch

精密電流電圧ソース 32ch

消費電力 2.2KW 空冷

以上